

実施した基礎調査

1. 生活者目線の調査

①茅ヶ崎の地域特性調査

市民と市外の双方に共通の設問・選択肢を用いたアンケートを行い、茅ヶ崎の特性を他都市と比較し、茅ヶ崎の「**まちの性格**」を把握。

②茅ヶ崎の印象やライフスタイルに関する調査

- ・ヒアリング、WEBアンケートから茅ヶ崎の「**ライフスタイル等**」を調査。
- ・メディア（雑誌、TV等）から、茅ヶ崎に関する「**印象**」について把握。

③教えて！好きな場所での過ごし方

日ごろ、どんな場所で、どのような気持ちで過ごしているのかを、「いつ」、「どうやって（移動手段）」、「気分」、「好きな理由」を聞き、「**生活の実態やまちの特徴**」を把握。

④みどりに関するアンケート

みどりを「守る」「増やす」「戻す」の視点で、満足度やニーズから、日々の生活で、「**どのようなみどりを大事に思っているか**」を調査。

2. 立地・地勢的特徴（参考）

統計データ

都市の立地、移動に関する統計等を用いて、基礎調査の結果と比較。

使用した統計等

- 乗換案内、大都市交通センサス
- 気象観測所データ、地価公示

調査結果

茅ヶ崎のイメージは、「自由な」、「明るい」、「ゆったりとした」といった印象。また、これからも同様のイメージであってほしいと感じている。

- ・温暖で住みやすい、住み心地がよい、ゆったりした暮らしが魅力として評価。
- ・生活の中で、自然だけでなく、まちの雰囲気も大切と考えている。

自然：海、山（癒されること）

雰囲気：のんびりとした雰囲気、穏やかな雰囲気

街や海が綺麗なこと、のんびり穏やかに過ごせる

自然、お店、通り、公共施設など、どこで過ごすかは好みや目的により異なる。

回答者の多くが、徒歩、自転車で行ける距離に落ち着いたり、ホッとしながら過ごせることを求めている。

家の周りや公共空間に、みどりのある空間が重要

- ・大きな公園、海岸などのみどりを守りたいと考えている。
- ・駅前、道路、自宅の近くなど、生活エリアに近いところにみどりが求められている。

・都心までの時間距離が約1時間で行ける都市で自然環境と都市機能がまとまっている湘南エリア。

・茅ヶ崎・辻堂エリアは、徒歩と自転車を移動手段としているエリアが広い。地勢に起伏がないことや、駅などの都市機能が近いことが要因。

・首都圏内の都市で茅ヶ崎の平均気温が年間を通じて高いことが、過ごしやすいと言われる要因のひとつと考えられる。特に秋から春先は、内陸側の都市と比べて約2～3℃高い。

考察

茅ヶ崎らしさは、茅ヶ崎の生活（生き方、過ごし方）

～茅ヶ崎にある自然や文化を、個人の生活スタイルで使い分け自分らしく生きていけるのが茅ヶ崎～

自然と都市が同居した環境

- ・年間を通じて気温が高いことや、海や里山など自然に触れられる距離にありながらも、都市の生活を送れる。結果として全体のイメージとして、ゆったり、のんびりといった印象に写る。
- ・東京・新宿駅までの時間距離が、約1時間以内の街の中で海や山などの自然環境が都市機能が住宅地の近くに立地する都市。

※茅ヶ崎らしさは、「海」、「サザン」、「ホノルル」といった特定のものによって、イメージが確立していない。プロモーションなどイメージを使った施策を展開する際は上記に留意する必要がある。

屋外での生活（気候、距離）

気候の温暖さや市内の様々な場所が自宅から近いなど、外に出やすい環境がある

- ・海や里山の中で、のんびり、落ち着いて、友達や家族と過ごせる。
- ・飲食店や施設で、友達や家族とワイワイ過ごせる（昼だけでなく夜も）。

移動しやすい地勢、距離の近さ

地勢的に平坦、目的地が近いことから結果として徒歩や自転車が選択される

- ・海辺・公園をジョギング、サイクリング
- ・ぶらぶら歩く
- ・空気を感いたい

茅ヶ崎らしさを感じるための大事な要素

■茅ヶ崎の生活を目に見える形にする

空間の整備に併せて、ソフトの面からも茅ヶ崎の生活を目に見える形（イベント、メディア戦略）していくことで、茅ヶ崎の魅力をより高めるものとなる。

- 例えば・・・
- ・公共空間の利活用（民間事業者との連携）
  - ・メディアの活用
  - ・デザイン指針の作成 など

■楽しく、リラックスして過ごせる空間

公園・広場等の公共施設や海や里山がある自然環境など、誰もが楽しく、リラックスして過ごせる屋外の空間が必要。空間づくりとその活用方を併せて進めていく必要がある。

- 例えば・・・
- ・既存の公園や広場の利活用（中央公園、しおさい広場 など）
  - ・緑陰空間やベンチがある公開空地
  - ・旧別荘地の面影を残す民有緑地の公開
  - ・歴史的建造物の保全と活用
  - ・道の駅、歴史文化交流館、市役所前広場など新たな公共空間の整備
  - ・自然環境や農地の利活用 など

■屋外の移動も楽しめること

・目的地に至るまでの移動環境を、安全かつ快適なものとしていく必要がある。茅ヶ崎は、歩き、自転車の移動環境を整えていく必要がある。

・民有地や通りなどに四季の移ろいを感じる花や木、魅力的なサインやストリートファニチャー等があると、移動の楽しみが増える。

- 例えば・・・
- ・富士山など眺望の保全
  - ・歩行空間、駅前広場のバリアフリー化
  - ・四季を感じる街路樹
  - ・ベンチなどの一息できる場所の創出
  - ・道路沿道の民有地の緑化
  - ・魅力が分かる公共サインやガイドブック
  - ・自転車レーンの整備
  - ・セグウェイやレンタサイクルなど、ゆっくり移動しながら、外の空気を感じる移動手段の導入 など